

# じんけん瓦版 第48号

発効日：2013年4月28日

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

## 「日の丸・君が代」強制はより私たちの身近に

人権委員 森田 信也

2008年、聖公会信徒であり、公立校教員である岸田静枝さん、井黒豊さんが「日の丸・君が代」強制に苦しんでいることを知りました。人権委員会では「強制問題に取り組む会」として「苦しむ方とともに祈る会」がスタートし、一昨年からは同じように苦しむ各教派のキリスト者にも呼びかけ、去る3月16日に第10回の超教派の「祈りの会」が浅草聖ヨハネ教会で開催されました。この間、2010年には日本キリスト教団信濃町教会、2011年にはカトリック麹町聖イグナチオ教会でも開催しています。

この取り組みの原点は教区会での『「日の丸・君が代」強制の即時中止を求める声明文を採択し、各教会に伝えて祈る件』の決議(2008.11.24)、そしてさらに過去の聖公会の戦責告白、「国旗・国歌法」に対する強制反対声明などにあります。

この間、自らの良心に基づき不起立やピアノ伴奏拒否を選択した多くの教員は都教育委員会によって処分を受けました。これに対し強制は教育の本質に反するとともに、憲法の保証する「思想・良心の自由」を侵害するものとして、強制はおかしいとする訴訟が多く提起されてきました。各訴訟により判断はまちまちでしたが、最高裁では「公務員」としての義務を優先し処分そのものは認めつつも、減給・停職などの過重な処分に対しては行き過ぎとし、異常な教育行政の状況に警鐘を鳴らしています。

教員に対し処分を課してまで強制した目的は「日の丸・君が代」を生徒・学生に浸透させることです。最近では、教員の方も世代が変わり処分という脅しの中で、処分そのものの絶対数

が激減しました。その意味では強制したい人たちにとって目的を達成したとも言えます。

政権に復帰した自民党は昨春に「憲法改正草案」を発表しましたが、憲法9条だけでなく、第3条には「国旗は日章旗とし、国家は君が代とする。」「日本国民は国旗・国歌を尊重しなければならない」という規定まで盛り込んでいます。憲法違反だと批判されるなら憲法そのものを変えてしまえばよいということなのでしょう。大阪では維新の会が世論を味方に公務員たたきの名のもとに公立学校での強制をさらに進めましたが、最近では私立学校に対しても補助金削減の脅しにより「国旗・国歌」を強制する動きまで出ています。

国旗・国歌は統合の象徴であるがゆえになおさら強制してはならない、このことは少なくとも欧米の民主主義国家では常識です。多民族国家が故に統合の象徴として、国旗・国歌への認識が強いアメリカでも「強制」はあり得ません。修正憲法や最高裁判例でもそのことは明確になっています。欧米の方には「国旗・国歌」を強制するという発想そのものが理解できないようです。

「日の丸・君が代」の持つ問題点はともかく、国旗が日の丸、国歌が君が代でなかったとしても「強制」だけは許されません。対象が公立学校の教員だけでなく、私たちの身近に迫るなかで人権委員会は、今後とも「強制がなくなるまで」微力ながら取り組んでいくつもりです。

## 東京同宗連」の〈広島平和研修〉

東京聖十字教会 打田茉莉

「東京同宗連」の第 33 回研修旅行は、3 月 6 日から 8 日まで広島方面で行われました。『「同和問題」にとりくむ宗教教団東京地区連帯会議』(通称「東京同宗連」)は、今年 6 月、第 19 回総会を迎えますが、毎年、部落解放基礎講座と研修旅行を実施してきました。近年は、同和問題に限らず、研修内容も「先住民族アイヌ」・「狭山事件」・「在日コリアン」・「松代大本営」・「差別戒名墓石」・「カンボジアの小さな命」・「納棺夫として」・「韓国併合 100 年を韓国で考える」・「差別語・不快語」・「浅草について」・「キムはなぜ裁かれたのか—戦争犯罪と戦後責任」・「重罪受刑者の処遇」など、命や平和を課題としたものとなってきました。ことに昨年の基礎講座は、広島平和文化センター理事長・広島原爆資料館長スティーブン・リーパー氏の講演でしたが、今回、広島の現地学習が実現しました。

第 1 日目は、広島からレンタカーで竹原市忠海へ行き、フェリーで大久野島へ渡りました。今でこそ瀬戸内海国立公園の中の休暇村でウサギが群れて家族連れのお客でにぎわっており、当時を偲ばせるのは、砲台(日露戦争前に作られた)跡、発電所跡、毒ガス貯蔵庫跡くらいですが、1929 年にこの周囲 4.3 km、面積 71.2ha の島に東京第二陸軍造兵廠忠海製造所が、日本陸軍の毒ガス工場を設置し、各種の毒ガスや信号筒風船爆弾が製造され、特にイペリットの生産に重点がおかれていました。危険な施設は東京から離れたところで秘密が保たれると、忠海町は不況で軍隊の施設なら不況に強いと政治的に誘致、比較的町に近く資材や労働力の供給が容易、船で中国に輸送しやすいなどの理由でこの島が選ばれたのです。そうして、1937 年に日中戦争が始まると毒ガスの製造が急増し、国際法上禁止されていた毒ガスが、中国各地で実戦に使われるようになりました。「戦争の悲惨さを、平和の尊さを、生命の重さを」と掲げて「この歴史を忘れないために、二度とふたたび繰り返さないために、いつまでも平和であり続けるために」と、毒ガスの恐怖を訴える「毒ガス資料館」を見学しました。工員たちは、ゴム製の防毒マスク、衣服、手袋、

長靴等で全身が覆われていてもガスは隙間から浸透し、皮膚、目、咽等を冒され、結膜炎、肋膜炎、肺炎、気管支炎等に苦しみ、有効な治療法はなかったと、当時の写真や医師の証言が展示されていました。1945 年 8 月、敗戦時、中国にあった毒ガス

### 毒ガスによる慢性障害

を日本軍は埋めたり捨てて隠しました。大久野島に集められ、処理を請け負った帝人三原工場の社史によれば、海洋投棄、焼却、島内埋没等の方法で処理したことになっていますが、毒を浴びた後遺症に悩まされる人々が少なくなく、付近の海の生物が壊滅したり、長年、漁師の網に廃棄物の破片がひっかかったそうです。近年になってからも中国で日本軍の化学兵器の被害事件が起きたり、日本でも環境汚染による被害事故が発生しています。

第 2 日目の午前、オプションで江田島の旧海軍兵学校、宮島、広島市内などに分かれて見学し、午後、呉に集合し、呉市海事歴史資料館「大和ミュージアム」と「てつのかじら館」を見学しました。呉は、紀伊半島から瀬戸内、四国から九州東海岸までを守備範囲とする呉鎮守府があり、海兵団や水雷団などの部隊や戦艦大和も建造された呉海軍工廠があった町です。現在の国土地理院発行の地形図の元は、陸軍陸地測量部が作成し、軍事秘密で一般の人は入手できなかったもので、当時は大幅に省略した「交通図」が発行されていたのですが、広島と海田市の南にある呉の要塞地や竹原の南の大久野島がある部分は一般用には刊行されなかったのです。

「大和ミュージアム」は、日清戦争以前の 1889 年に呉鎮守府、日露戦争前の 1903 年に呉海軍工廠

が設置されたことなどに始まり、戦艦大和の建造や乗組員の遺品、遺書や運命など呉の歴史を忘れずに伝えていこうということと、他方、戦後は世界的な造船の町となった誇るべき技術の継承があるということで、子どもたちに希望や科学技術への関心をもたせたいための展示物や実験工作室も備えています。ここから全容を眺められる「てつのくじら館」は海上自衛隊呉資料館で鯨の姿に似た潜水艦が丸ごと見物できるようになっています。戦争中に海中に仕掛けられた機雷の後始末の大変さの展示や、実際に乗組員が生活していた狭い船室等も見せています。艦内を説明してくれるのは海上自衛官 OB です。ここのお土産は「海軍コーヒー」とか「海軍カレー」など、やはり「海軍」の町なのだと思います。資源が乏しい日本で明治以来、どれだけの鉄を外国から買い、どれだけ海に捨ててしまったのでしょうか。それ以上に、どれだけ多くの若者が将来を絶たれ、徒死させられたのでしょうか。

てつのくじら館前で

大和ミュージアムには、戦艦大和と命運を共にした人々の出身県別の名簿が展示されていました。

第3日目は、原爆ドームからスタートし広島記念公園内の原爆死没者慰霊碑、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、広島平和記念資料館を見学した後、オスローで開催された核兵器廃絶国際会議から昨日帰ったばかりというスティーブ・ブーン・リーパー館長のお話をうかがいました。資料館の展示は年々増えて、原爆の被害の事例の報告も沢山ありますが、そうしたものは、そこに行かなければ見られません。その点、昨年12月に73歳で亡くなった中沢啓治さんの「はだしのゲン」は、何か国語にも翻訳され、「黒い雨にうたれて」などの短編集が訴える力はすごいと思います。

また、この広島県研修旅行に加え、2009年8月に放送されたNHKスペシャル「日本海軍400時間の証言」を思い起こします。番組の制作統括である藤木達弘氏が番組制作にあたって述べているように、旧海軍士官たちが反省会で語ったことが、「決して過去の事として語らず、現代への教訓を探す」ことでした。「組織優先で、個人を軽視する」「失敗したときの責任の所在の曖昧さ」「流れに身を任せた結果生まれる“やましき沈黙”」などの教訓は、現在の私たちも常に意識しなければならないことです。東日本大震災が私たちに見せた津波対策、原発関連の犠牲者、その後の被災者の状況それぞれに繋がる問題が見えてくると思います。

## 他宗教との交わり

浅草聖ヨハネ教会牧師 司祭 大森明彦

東京教区は「同和問題」に取り組む宗教教団東京地区連帯会議（通称「東京同宗連」）に加盟しています。「東京同宗連」は1994年に結成されて以来、活発に行動と交わりを重ね、来年は結成20周年を迎えます。

立正佼成会も加盟教団のひとつです。立正佼成会から2013年3月11日に「東日本大震災犠牲者

慰霊並びに復興法要」という大きな式典が行われるからとお誘いをいただいたのは昨年末のことでした。聖公会神学院に私が在学していた頃、立正佼成会の方々が毎年秋に神学院チャペルを訪問され、祈りを共にされていたことを憶えています。そのことを思い出しながら、その式典に参加したいと思っていました。そして当日、「東京同宗連」

から6教団8名が参加しました。

場所は杉並区の立正佼成会大聖堂です。壮大な建物の中に3000人を超す信徒さんたちが正装に南無妙法蓮華経と書かれたたすきをかけて集まっていま



立正佼成会大聖堂

した。午前8時45分にパイプオルガンの序奏があり、9時から式典が始まりました。お題目三唱、会員綱領唱和、奉献の儀、読経供養、回向文奏上、焼香と厳粛な儀式が続くと、教団代表の挨拶があり、その中で「東京同宗連」から8名が参加していることへの感謝の言葉をいただきました。

その後、体験説法が2人の方からありました。1人は板橋教会主任の女性で、この方は昨年末福島県の仮設住宅で避難生活をする人々を訪問した体験を涙ながらに語っていました。もう1人の方は平（たいら）教会支部長を務める女性で原発付近の檜葉町に震災発生のその日まで住んでいた方

です。この方の長男は福島第1原発で働き、次男は東京電力に勤務するという原発家族です。震災のあった日、ご長男から遺言のような電話があったそうです。「お母さん、親孝行できなくて、ごめんなさい。お願いだから、できるだけ遠くへ逃げて！」原発で何かがあった。なんだか分からずこみあげる涙に濡れて、息子の言葉通りに東京へと向かいました。しかし東京に避難していてもただ生活があるだけ。相変わらず福島第1原発の持ち場を離れず頑張る息子の姿に動かされ、いわきの仮設住宅で避難生活をする信徒さんたちを励ます仕事に身を任せる決意を固め、福島へ戻りました。そして平教会で働いています。原発と密接に結びついた日常に東日本大震災がもたらした生の声を宗教者から聞くのは初めてでした。

式典後、開祖記念館にも案内していただきました。立正佼成会の創立は1938年です。開祖の庭野日敬さんは1965年に第2バチカン公会議に出席し、1970年に第1回世界宗教者平和会議の開催を京都で実現しています。人権問題に宗教の壁はありません。「宗教が互いに背を向けるのではなく、協力して人びとを救済しなければならない」という庭野日敬さんの言葉に私たちが心を開いて行けるように願っています。

## 人権週間講演会

# えん罪とメディア —幻の「筋弛緩剤殺人」報道検証—

えん罪事件はあなたにも降りかかるかもしれない！

捜査員の思い込みによるずさんな捜査。捜査情報を鵜呑みにした犯人視報道。それに影響される検察・裁判官。えん罪事件に関わるメディアの誤った報道・人権侵害を検証する。

**日時：** 6月8日（土）14:00～16:00

**場所：** 牛込聖公会 聖バルナバ教会

**講師** 山口正紀さん

ジャーナリスト「人権と報道・連絡会」世話人

問い合わせ先：人権委員会 打田 090-9649-0392

**主催** 日本聖公会東京教区 人権委員会